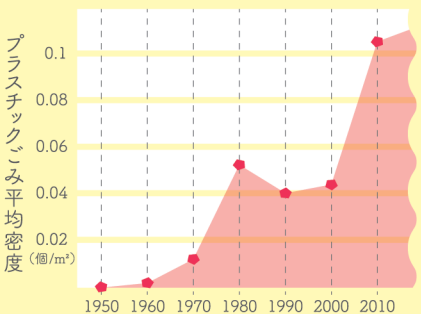
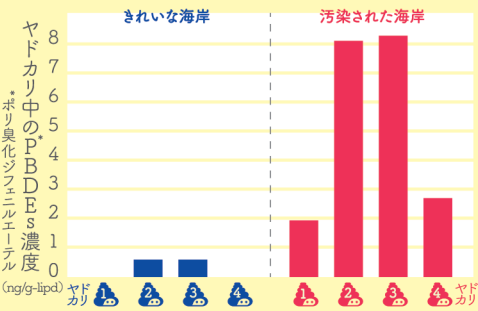


毎年、約80万トンの
プラスチックが海に
流出しています。

海にはたくさんのごみが流出していますが、中でも量が
多く、問題になっているのが
プラスチック。人工物である
プラスチックは自然環境で分
解されず、細かく砕かれて海
底に堆積していきます。日本
財団と東京大学が過去七十
年間の日本周辺（北太平洋
の海水サンプルを調査した結
果によると、一九五〇年から
八〇年まで、海中のプラス
チック密度が十年ごとに約十
倍のペースで増加！その後も
確実に汚染が進行しているこ
とがわかりました。日本周辺
の海に漂うプラスチックゴミ
は、世界平均の約27倍。三十
年以内に、海中のプラスチッ
ク濃度は魚よりも多くなる
といわれています。



最近、沖縄のいくつかの離島
で、オカヤドカリの体内に蓄
積されたプラスチック量の調
査が行われました。プラスチッ
クで汚染された海岸と、そう
でない海岸、両方のオカヤド
カリを比較した結果、きれい
な海岸のヤドカリからはほ
んど化学物質が検出され
なかったのに対し、汚染され
た海岸のヤドカリには化学
物質の蓄積が進んでいること
がわかったのです。



また、蓄積した化学物質は、
生物体内でより有害なもの
に変化することもわかりま
した。汚染された海の魚を
食べることで、私たちの身体
にもプラスチックは堆積して
います。

海洋ごみは私たちに
どう影響するのか？

自分と世界を守る
ために、何ができるのか

プラスチックそのものは決して
悪いものではありません。
大切なのは、「使用した後は
適切に処理すること」、「代替
可能なものはできるだけ置き
換えること」。世界中に暮
らす人々の、ひとりひとりの
取り組みが重要なのです。

徳之島にもたくさんのお海
ごみが流れ着いています。海
を漂う海洋ごみは、季節風
によって流れる方向が変わり
ます。冬の寒い時期、北東か
らの風で流されてきた大量
のごみが、島の東側、中でも
金見の海岸に漂着します。
そしてこのごみは、風向きが
変わったらまた流れていって
しまうのです。



海に流されたごみはやがてマ
イクロプラスチックになり、
回収できなくなってしまう
す。つまり、回収するなら今
しかありません。

問題
最新情報

金見海岸清掃会
2月26日(日)実施!
詳しくはこの紙面の広告をご覧ください。

出典 日本財団×東京大学
海洋プラスチック対策事業



海洋ごみ

鳥の宝を
守り伝えるために



NPO法人
徳之島
虹の会